

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：うーたん保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：佐藤 愛美	定員（利用人数）： 72名	
所在地：〒253-0072 茅ヶ崎市今宿473-1		
TEL：0467-84-4010	ホームページ： <a href="http://www.syonokai.jp">http://www.syonokai.jp</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2012年7月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人翔の会		
職員数	常勤職員： 18名 非常勤職員 7名	
専門職員	保育士 23名 栄養士 1名	
	看護師 2名 調理員 1名	
施設・設備の概要	保育室5室	サーキットルーム、給湯室

③理念・基本方針

<p>◇翔の会とうーたんの願い（基本理念）</p> <p>～誰もが地域でくらすために～</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもたち一人ひとりをかけがえのない存在として大切にします。</li><li>・子どもたち一人ひとりの思いによりそ育ちの支援・保育をおこないます。</li></ul> <p>◇うーたん保育園の理念</p> <ol style="list-style-type: none"><li>①子どもたち、一人ひとりが、自分自身への信頼感をもち、自分を大切に思えるようになること。</li><li>②やわらかに開かれた心をもち、だれをも大切に思え、さまざまな人とともに生きていけること。</li><li>③その人なりのからだと心の調和がとれるようになること。</li></ol> <p>◇うーたん保育園の保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもたちが園での生活を安心して、楽しくおくれること。</li><li>・情緒が安定し、基本的信頼感を高めるようにする。</li><li>・自立心と、いろんな人へ共感できる心、関わる力が育つようにする。</li><li>・自然や環境、物との関わりを深める。</li><li>・創造性を豊かにし、言葉をそだて、表現する力をつける。</li></ul>
--

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>○縦割りの保育を実践している。0歳児、1歳児、2歳児、3・4・5歳児と、年齢別のクラスはあるが、子どもたちは自由にクラス間を行き来している。子どもたちは、年齢の異なる子どもがクラスに来て自然に受け入れ、一緒に遊んでいる。</p> <p>○子どもたちの活動は、すべて主体的に、子どもたちのミーティングで決めている。やりたいことをどう行か、子どもたちが意見を出し合い、計画を立てて自分たちの活動を作り上げている。自分の考えを人に伝える、嫌なことは嫌と言える、人の話をしっかり聞くということから、積極的に物事を考え、創造力を伸ばしている。</p>
---

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年6月1日（契約日）～ 2024年2月9日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

⑥総評

<p>◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等</p> <p>○「うーたん保育園」は、複合支援施設「ちがさきA・UN」の1階にあり、同じ階に「児童発達支援センターうーたん」と、重複障害・医療ケアの必要な方が通う「おーらい」があり、2～4階には特別養護老人ホーム「ゆるり」がある。子どもたちは日頃より、特別養護老人ホームに行き来し、入居者と日常的な関わりを持ち、お隣の児童発達支援センターのお子さんとは、イベントなどでの交流を深めている。</p> <p>○子どもたちは、ビーズ遊びやお絵かき、プラレール、プットイン、スイートポテト作りなど、好きな遊びを年齢に関係なく行っている。保育士は指導的に大きな声を出さず、子どもに寄り添いながら会話をしている。子どもに先回りして口を出したり、手を出したりせず、まずは子どもの声を聞いている。子ども同士、また大人との対話を持ち、お互いの思いを伝え合う、知る、認め合うことを大切にしている。</p> <p>○廊下やクラス前にはドキュメンテーション（子どもの活動を写真などで視覚的に記録すること）コーナーがあり、園でどのような遊びをしたかなど、多くの写真を展示している。保育参観では保護者は変装して保育室に入り、子どもたちの家では見せない人にやさしい言動、家ではやらない行動を見て感動し、成長を喜んでもらっている。保護者参加のA・UN夏祭りや夕涼み会、すぼフェスなどで、子どもの成長を共有している。</p> <p>○0歳児は、スタッフと一対一の関係を基本とし、できるだけ家庭と同じように安心して、リラックスして過ごすことができるようにしている。また、食事から寝かしつけまで、できるだけ同じスタッフが関わるようにしている。マッサージをしたり、五感を使った感覚遊びを多く取り入れている。天気の良い日は、4人のりバギーで散歩に行き、自然の中で遊んでいる。一人ひとりの子どもの生活リズムに合わせて保育を行っている。</p> <p>○クラスの垣根を超え、1、2歳の子どもは一緒に遊んでいる。子どもたちそれぞれが、やりたい遊びのコーナーで、室内ではおままごとや指先あそびなど、好きな遊びを楽しんでいる。天気の良い日は、卒園記念でいただいたみかんの木の実を自由に収穫し、楽しみながら食べたりしている。</p> <p>○3、4、5歳児は基本的に異年齢保育を行っており、皆好きな遊びを年齢に関係なく考えている。朝のミーティングを行い、今日は何をするか、イベントやこれからやりたいことなどを話し合っている。次のクッキングは何をするか、芋掘りのサツマイモはどうするかなどを決めている。子どもたちの希望で、虫部、畑部、電車部、アイドル部などを作り、好きな部に入って自由に遊びを広げて楽しんでいる。</p> <p>○園の基本方針として「インクルーシブな保育」（すべての人を差別なく受け入れる社会）を実践し、肢体不自由やダウン症、聴覚障害などの障害児や、胃ろうや気管切開などで医療的支援の必要な子どもも、皆と一緒に生活をしている。看護師が保育の中に入り、医療的ケアや健康状態の把握などを行っている。</p> <p>○栄養士と調理員が、一人ひとりの子どもに合わせた食事を作っている。子どもたちは窓越しに「おはよう、今日はなあに」など、調理員と親しく話している。子どもたちの顔を覚えるため、厨房の窓には一人ひとりの子どもの写真を掲示している。食材は冷凍品は使わず、近くの豆腐屋や魚屋、地元の野菜を使って調理し、安全な食べ物を提供している。「マ（豆類）・ゴ（ごま）・ワ（わかめ）・ヤ（野</p>
---

菜)・サ(魚)・シ(椎茸、キノコ類)・イ(芋類)」食材を使用し、日本人の身体に適したご飯を中心にした和食によって、元気な身体を作っている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価と訪問調査に来て頂きありがとうございました。今回、改めて子どもたち、保護者への向き合い方や園の環境や衛生面、備えておくべきこと、組織として取り組んでいくべきことなどを振り返ることが出来ました。

今回見えてきた課題は、職員で共有し一つ一つ取り組んでいきたいと思います。

また、自園の良さにも気付かせて頂きました。引き続き、子ども、保護者、職員の対話を大切に持ち、精進して参ります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり